

今週の為替相場見通し(2021年12月20日)

総括表		注	先週の値動き		今週の予想レンジ
			レンジ	終値	
米ドル	(円)		113.15 ~ 114.28	113.71	112.50 ~ 115.00
ユーロ	(ドル)		1.1221 ~ 1.1360	1.1236	1.1180 ~ 1.1300
(1ユーロ=)	(円)		127.79 ~ 129.60	127.79	126.50 ~ 128.50
英ポンド	(ドル)		1.3172 ~ 1.3375	1.3233	1.3150 ~ 1.3300
(1英ポンド=)	(円)	*	149.77 ~ 152.64	150.51	149.50 ~ 151.50
豪ドル	(ドル)		0.7090 ~ 0.7224	0.7127	0.7050 ~ 0.7250
(1豪ドル=)	(円)	*	80.48 ~ 82.44	81.01	80.00 ~ 82.40

(データ)先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、*印の項目はブルームバーグ。

1. 米ドル

市場営業部 為替営業第一チーム 山岸 寛昭

(1)今週の予想レンジ: 112.50 ~ 115.00 円

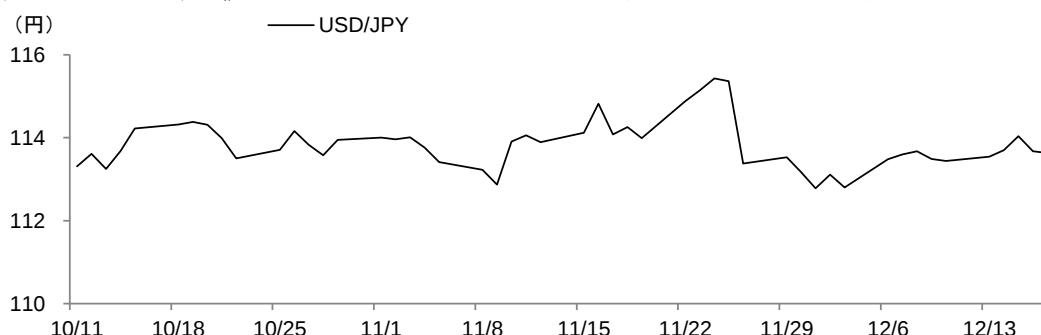
(2)ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のドル/円相場は、週後半にかけて上下する展開。週初13日、113.50円付近でオープンしたドル/円は先週末からのドル売りの流れが一巡し上値を伸ばすも、株式市場、米長期金利の反発を眺めながら113円台半ばまで反落した。14日のドル/円は週後半にFOMCなど多くの国の中銀イベントを抑えての様子見の展開となり、113円台半ばを中心に狭いレンジでの推移となった。海外時間では株式市場の軟調推移に値を下げるも、ポジション調整や米11月PPIが市場予想を大幅に上回ったことから113円台後半まで上昇した。15日、ドル/円は米国時間に発表の米11月小売売上高の冴えない結果に一時的にドル売りの動きが見られるも、FOMCではテーパリングペースの加速が決定された他、利上げ時期の前倒しを示されたことで、ドル/円は週高値の114.28円まで急伸した。16日、海外時間の流れを引き継ぎ堅調に推移していたドル/円は、英中銀の利上げによる対ポンドでのドル売りがドル/円にも波及し、米金利低下も相まって113円台半ばまで急落した。17日のドル/円は株価下落でリスク回避の動きから113.15円まで下落するも、その後FRBウォラー理事の早期利上げを支持する発言でドルが買い戻され、113.71円で越週した。

今週のドル/円は堅調な推移を予想。先週のFOMCではテーパリング加速決定に加えて、利上げ前倒し、インフレ見通し引き上げも示され、非常にタカ派な内容となった。FRBの金融政策正常化を受けて、今週も基調としてドルが買われやすい展開が続くそう。FOMCでは声明文からインフレは一時的との表現を削除。供給制約が徐々に落ち着く一方、労働需給のひっ迫と賃金上昇がさらなるインフレを招くスパイラルとなる可能性や、住宅価格高騰が帰属家賃として今後インフレに波及することも勘案、粘着性の高い物価上昇が来年以降の継続的な利上げにつながると考える。FRBに加えてBOE・ECBなどの主要中銀が正常化への姿勢を先週会合で示した一方、金融緩和を続ける日本とのコントラストも円売りにつながりやすい。今週に関しては、重要イベントが少ない中、株価・金利など金融市場の動向を見ながら先週の中銀会合の結果を消化する展開となりそう。ドル/円は堅調推移を予想するも、金融緩和縮小で週後半に株安が目立っており、リスク回避の円高の動きには警戒。また直近高値の115円台ではドル売り意欲も強く、FRBによるバランスシート縮小(QT)など新たな材料が出てくるまで、上値余地は限定的になると予想する。

(3)先週までの相場の推移

先週(12/13 ~ 12/17)の値動き: 安値 113.15 円 高値 114.28 円 終値 113.71 円



(資料)ブルームバーグ

2. ユーロ

市場営業部 為替営業第一チーム 鈴木 智大

(1) 今週の予想レンジ: 1.1180 ~ 1.1300 126.50 ~ 128.50 円

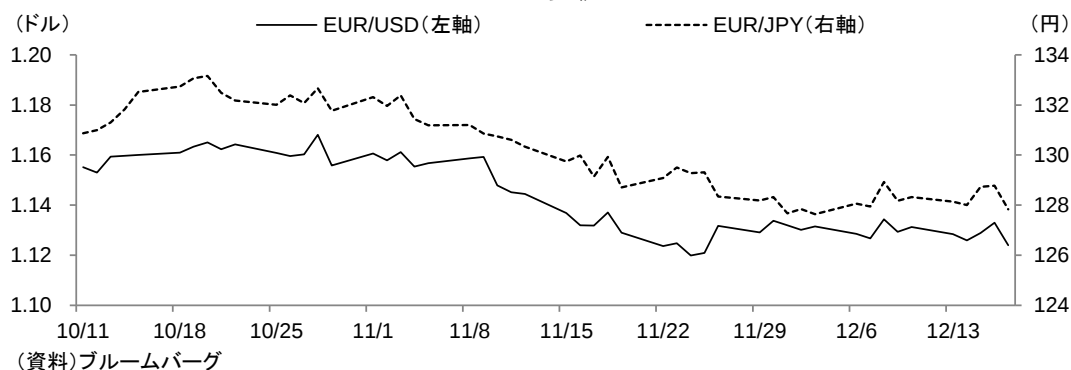
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のユーロは方向感なく推移し、レンジ内での値動きに留まった。週初13日は1.1311でオープン。各国で中銀会合を控えての警戒感からか、株式市場が軟調推移をみせ徐々にユーロも売りが優勢。1.12台半ばまで下落し、その後も上値は重く推移した。14日は欧州時間入った後に上昇し、一時1.13台を回復するもその後はじり安の展開。「ECBの23年と24年のインフレ目標が2%を下回ると予測される」とのヘッドラインが伝わると更に値を下げ、1.12台半ばまで反落した。15日はFOMCでテーパリングの早期縮小、利上げの前倒しといったタカ派的な内容が示されると一時1.12台前半まで下落。ただ結果がある程度想定範囲内であったことへの安心感からか株式市場が反発をみせ、一転ドル売りに。1.12台後半まで上昇して引けた。16日はBOEやECBを控えしばらくは小康状態。BOEが予想外の利上げを実施し、ポンドに連れ高となる形で1.13台半ばまで上昇。ECBでもPEPPの22年3月末での終了が発表され、一時週高値となる1.1360まで上値を伸ばした。しかしその後のラガルドECB総裁のハト派的な発言により勢いは弱まり、1.13台前半でクローズ。17日は方向感のない推移が続く中、FRB理事が22年3月の利上げ可能性について言及するとドル買いが強まり、1.12台半ばまで下落。その後も軟調推移を続け、1.1236で越週した。

今週のユーロは、クリスマス休暇に入り明確な方向感が出ないながらも、上値の重い推移を予想する。ECBの金融政策についてであるが、これまでよりはタカ派的な内容が示された。ただ当初の予定通り22年3月末に終了となるPEPPが完全に廃止という取扱いをされない点や、資産の定期購入プログラムがPEPP終了後の22年4月からの増額が検討されているという点に、米国をはじめとする各国中銀の緩和縮小に対するスタンスとは依然として差があるように感じられる。またオミクロン株を中心に、欧州でのコロナウィルス感染拡大が収束をみせていないことも大きな懸念事項だ。オランダをはじめとする各国では、ロックダウンなどの感染拡大防止措置が続々と講じられているが、これが長引くようだと、経済停滞懸念が再燃し、ユーロの上値を押さえる要因となるだろう。今週の主な経済指標として、20日(月)にECB経常収支、21日(火)に独12月GfK消費者信頼感の発表が予定されている。

(3) 先週までの相場の推移

先週(12/13 ~ 12/17)の値動き: (対ドル) 安値 1.1221 高値 1.1360 終値 1.1236
(対円) 安値 127.79 高値 129.60 終値 127.79



3. 英ポンド

欧州資金部 本多 秀俊

(1) 今週の予想レンジ: 1.3150 ~ 1.3300 149.50 ~ 151.50 円

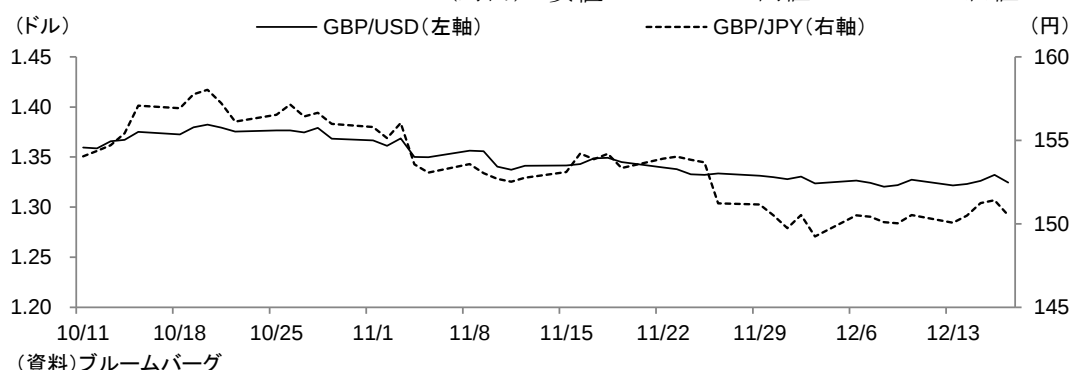
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の英ポンド相場は、振り返って、概ね横ばいから小幅上昇。ポンド押し上げの主因は、英中銀金融政策委員会による予想外の利上げ(17日)に求めることができただろう。前後して発表された英経済指標に読み取れた物価、賃金、消費動向などは、確かに利上げを正当化し得た。14日に発表された英11月失業率(社会保障受給ベース)の低下、英8~10月平均賃金の高止まり、15日に発表された英11月CPIの急伸、17日に発表された同小売売上高の上振れなどだ。それでも、オミクロン株の急速な蔓延などを背景に、年内の利上げは見送られるとの見方が市場では支配的だった。予想外の利上げ(0.10%→0.25%)だったにもかかわらず、ポンドの上昇は小幅、かつ一時的にとどまった。前日(15日)の米連銀公開市場委員会の決定が、タカ派的な内容ではあったものの、事前の予想の範囲にとどまり、その後のドル全面高、全面反落を招いたのは、典型的な「予想で買って、事実で売る」値動きと言えたが、英中銀利上げ後程なくのポンド反落には違和感が強かった。利上げ発表直後、対ドルで1.3375、対円で152.63、対ユーロで0.8454と、それぞれ週の高値まで上昇したポンドは、程なく、ほぼ利上げ発表前の水準まで反落してしまった。16日に投票された(結果発表は英時間の17日未明)英北シュロップシャーにおける補選は、与党保守党の牙城と見做されながら、自由民主党候補者に予想外の大敗。週引けに掛けているポンド軟調には、或いは、英政局流動化に対する不安が重石になった可能性も考えられただろう。

今週の英ポンド相場は、軟調を予想。上述の通り、先週、英中銀が利上げに踏み切った前後のポンドの値動きには、違和感が強かった。とりわけ、英中銀に続いて結果を発表した欧州中銀が、パンデミック緊急購入策(PEPP)の再投資期間延長や(通常の)資産購入策(APP)の一時的増枠など、敢えて読むならハト派的な内容だったにもかかわらず、ポンドが対ユーロでもあっさり元の水準まで反落してしまったのには意外感が強かった。追加利上げのタイミングは、来年2月か5月かで見方が割れており、年末年始のこの時期、その見方をいずれかに大きく傾けるような要因は想定しづらいのではないかと。であるなら、目先は、この「意外な」ポンド軟調が支配的な状態が続く可能性が高いのではなかろうか。足元、英国内における新型コロナ感染者数は、コロナ禍発現以来の最高を連日更新している。英政府のコロナ禍対策は、現在、3回目のワクチン接種(ブースター接種)を主軸に展開されているが、流石に、ナイトクラブやバーなどのホスピタリティ産業の営業停止に対する圧力が高まってきている。ジョンソン首相にとって悩ましいのは、とりわけ与党保守党内で、ワクチン接種証明書(ワクチンパスポート)提示義務化や、ホスピタリティ産業営業停止といった厳しい行動制限導入に対する抵抗が強いことだ。上述、北シュロップシャー補選における保守党の敗北には、昨年末の厳格な行動制限(ロックダウン)の真っ最中に、首相官邸職員が40人規模のクリスマスパーティーを開いていた、首相自身が「クイズナイト」をホストしたりといった事実が発覚したことが大きく影響した。与党内で首相の失態に対する批判が強い環境で、与党内から更に反発が強まれば、一気に辞任要請にまで発展しかねない。また、ホスピタリティ産業援助のための財政支援再開に対する要望が強まっているのも、英財政の先行きに対する不安を投げ掛ける。英国内で、オミクロン株は急速に広がっており、近い将来、感染状況が落ち着く可能性は考え難く、ジョンソン首相にとっては、極めて悩ましいクリスマスが待ち構えていると言えるだろう。

(3) 先週末までの相場の推移

先週(12/13 ~ 12/17)の値動き: (対ドル) 安値 1.3172 高値 1.3375 終値 1.3233
(対円) 安値 149.77 高値 152.64 終値 150.51



4. 豪ドル

市場営業部 為替営業第二チーム 甲斐 貴之

(1) 今週の予想レンジ: 0.7050 ~ 0.7250 80.00 ~ 82.40 円

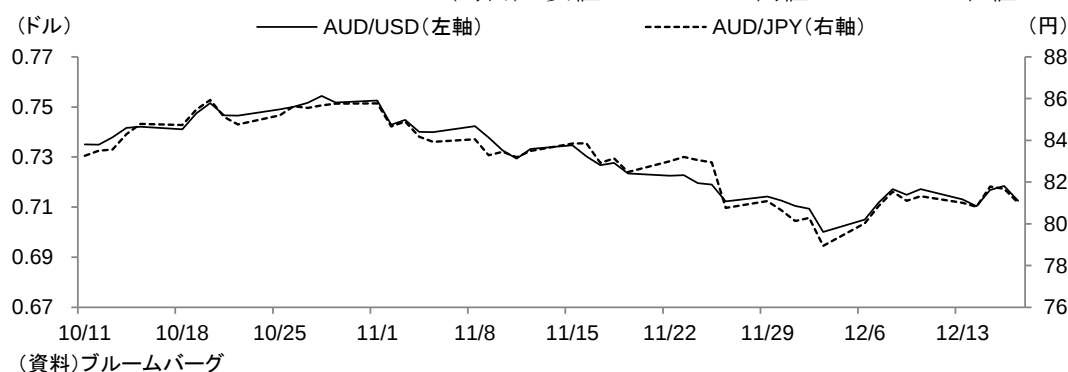
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の豪ドル相場は週半ばに米FOMCを控えて前半は0.7090まで下落したが、次第に反転し一時0.7224まで上昇した。13日は0.7160近辺でスタートしたものの、欧州入りから米ドル買いの流れが強まり、豪ドルは下落に反転。一週間ぶり安値0.7111まで下落した。14日は前日からの流れが継続して売りが先行し、週安値の0.7090まで下落。その後も0.71近辺での推移となった15日、アジア時間帯はFOMCを控えて小動き。FOMC発表直前のタイミングで瞬間的に0.7093まで下落したが、FOMC発表後は買い戻され水準を戻した。その後、堅調な株価を背景に上値を追う展開となり0.7170近辺で引けた。16日は0.7170近辺で取引開始後、豪11月雇用統計の結果が予想以上に堅調だったことから一瞬買いで反応したが、上昇の勢いに欠き、アジア時間帯は0.71台半ばでレンジ推移。その後、BOEが政策金利を0.1%から0.25%に引き上げを発表すると、予想外の利上げから英ポンドが大きく上昇する動きに米ドルは下落。豪ドルは3週間振りの高値である0.7224まで上昇した。その後、株価の反落とともに0.7180近辺まで下落した。17日は材料に乏しく小幅な値動きにとどまり推移し、0.7127で越週した。

今週の豪ドルは目立ったイベントも少なく、クリスマス休暇を前に大きな値動きが出にくいと予想される。先日のロウRBA総裁講演では、来年利上げが必要になる可能性は低いとの考えを繰り返しており、テーパリングに関しては、(1)5月終了、(2)5月にテーパリング速度を見直し、(3)2月に終了、の3つの選択肢があるとした上で、RBAのメインシナリオは(1)との見解を示した。しかし、先週の雇用統計は予想外に強い内容だったこともあり、このまま労働市場の改善が継続すればインフレ上昇速度が想定以上に早まる可能性がある。足元では、先週の米FOMCの政策金利見通しで2022年に3回の利上げを織り込みやBOEの利上げなど各国中銀のタカ派傾向は継続しており、1月25日(火)に発表される豪10~12月期CPIの結果次第ではメインシナリオが(3)へのシフトの可能性もある点には留意したい。

(3) 先週末までの相場の推移

先週(12/13 ~12/17)の値動き: (対ドル) 安値 0.7090 高値 0.7224 終値 0.7127
(対円) 安値 80.48 高値 82.44 終値 81.01



当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。